（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0171400906		
法人名	社会福祉法人函館大庚会		
事業所名	グループホームこんはこだて		
所在地	函館市時任町35番4号		
自己評価作成日	平成29年2月24日	評価結果市町村受理日	平成29年4月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0171400906-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居されている方の高齢化が進み重度化傾向な為、個別ケアを重点に考えそれぞれの年齢や生活歴に合わせた生活が出来るように努めている。季節に添った行事や、地域や世代間交流を目的とした行事に積極的に参加している。また、地域へ向けてのアピールや企画の立案、地域への広報活動を地域住民の協力を得ながらグループホームというものに理解を深めて頂ける様働きかけも行っている。入居者のご家族には生活の様子を毎月の広報や手紙でお知らせすると共に、認知症の高齢者を支えるチームの一員として、ご家族の存在・協力が必要であることを伝え、意識して頂ける様努力を続けている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9　ナルク江別内
訪問調査日	平成29年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

函館の都心五稜郭地区の繁華街から少し離れた閑静な住宅街に位置し、隣接して同法人の「グループホーム街」や系列の医療機関がある。医療に関しては隣接する法人のクリニックや訪問看護と医療連携体制をとっているので、入院しないでグループホームで生活しながら簡単な治療を受けることが出来る。 地域との交流も積極的で地域の保育園や高校とも交流があり、七夕には保育園児が来訪して交流し、利用者は高校生と一緒に作った花壇を日々楽しみ、種から育てた苗を地域の高齢者に配り喜ばれている。時任町会との交流も長く、利用者は地域の「ふれあい会食」に行ったり、また隣接のグループホームと合同で住民も参加した避難訓練を行ったり、事業所の行事（バーベキュー・餅つき）には沢山の地域住民が訪れ、利用者は地域とのつながりを深め、支援を受けて生活している。管理者は職員に法人内外の研修会への参加を促し、専門職としての意識や知識の向上に努めている。職員の知識・資格等を活かし、地域包括支援センターと「認知症カフェ」の開催を企画するなど地域と共に支え合う事業所をめざしている。利用者は地域の中で家族、職員に支えられながら穏かにその人らしい生活を送っている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で一人ひとりが自分らしく当たり前の生活を送る」を運営理念とし、印刷した理念の用紙を身分証明ケースなどで携帯したり、施設内数か所に理念を掲示している。	職員の名札の裏に利用者の「残存能力の活用と意思の尊重等」を謳った理念を携帯している。事務所の目に付くところにも理念を掲示して、理念の共有に努め、介護の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、町内会イベントへの参加、地域交流イベント等への協力を仰ぎ、地域や世代間交流を図っている。	地域には年2回広報紙を発行し、町会の協力を得て回覧し、認知症への理解を深めている。高等学校の支援により春・秋・冬の花壇整備を行い、町会とは毎月のふれあい会食などへ利用者と参加している。七夕には保育園児の歌の訪問があり、イカの無料配布、バーベキュー、餅つきなどは町会の支援を得て住民が参加し、相互に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域交流イベント、地域へ向けた広報の発行を年2回実施し、地域住民の認知症への理解を深めて頂ける様働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の交流を通じて、町内会の方々より外側からの率直な意見・助言・提案を頂き、グループホームのサービス向上に活かしている。	利用者・家族、行政、地域包括支援センター職員、町会関係者などが参加し、概ね2ヶ月毎に年6回開催している。会議は、バーベキュー、花壇作り、餅つきなどの行事と合わせて開催して、参加者を増やすことに繋げている。参加者から町会行事予定や意見など活発な発言があり、意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のご案内と参加を依頼するほか、サービス向上に繋がる研修の開催を要望する等している。また、市の高齢者相談窓口担当者よりグループホーム入居に関する相談を受ける等している。	運営推進会議の議事録や広報紙を届けているほか、虐待や身体拘束の研修会開催を要請し、実現している。疑問点等は来訪や電話で連絡を取り、入居の相談を受けるなど連携を築くことに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外の研修へ参加し、身体拘束をしないケアへの理解を深め、正しい知識を持ち日常のケアに努められるようにしている。また、日頃から身体だけでなく言葉や環境的な拘束などについても職員同士で指摘し合ったり、話し合ったりしている。	法人は、身体拘束や虐待防止の内外研修には積極的に参加を求め、職員の資質の向上に努めている。管理者は、目に付いた行為にはさり気無く注意し、職員の気付きや改善に繋げている。玄関は、夜間のみ施錠して安全を確保し、体動センサーについても家族へ状況を説明して、書面で了解のうえ使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修へ参加し、虐待についての理解を深め、虐待を見逃さないように日常のケアに努めている。また、入居者にとって何が虐待になるのか考えることを意識できるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修を位置づけ、外部研修への参加を促し、権利擁護に関する制度の知識を深め、正しい知識を持てるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書・重要事項説明書・医療連携説明を基に説明を実施し、理解と納得を得られるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より入居者とそのご家族からのご意見・要望などを直接聞き取り、意向を伝えられない方に対しては、表情などから思いを感じ取れるように努め、遠方のご家族に対しては電話や手紙等で聞き取りを行っている。	殆どの家族が市内居住であることから、多い家族は週1回の来訪があり、その都度、意見・要望等を聞き、遠方は、電話や手紙で意向の把握に努めている。外出志向の意向を受けて事業所を施錠し、全員で食事に行くなど具現化に取組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面談を実施し日頃のスタッフの状況把握に努め、スタッフミーティング等で意見交換や提案を聞く機会を設け、スタッフの自主性を引き出せるよう努めている。	年4回の個人面談や月1回のスタッフミーティングを開催して、職員の要望や意見等を聞き取り、円滑な関係をつくり、介護支援に反映している。職員2名と利用者3名の班編成をして、利用者の体調管理や状況把握に努め、円滑な介護運営に取組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の人数に合わせた業務整理を行い、休息や勤務時のメリハリを作ることが出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を促し、法人全体としてスタッフの育成に力を入れ取り組んでいる。また、面談やスタッフミーティングを通じて、専門職としての意識や知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協会の勉強会や交流会への参加、外部研修による施設実習の受け入れなどにより、他施設の取り組みなどの情報を得られるようにしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前・入居時にご本人との話し合いの時間を持ち、一部センター方式を活用しながら本人の性格や特徴を出来る限り理解し、信頼関係の構築に努め、安心して過ごして頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居時・入居後に話し合いの場を持ち、ご家族の意向を聞き取り、支援につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	両者との話し合いの中と、今までの生活歴を基にアセスメントを繰り返しながら、どのようなサービスが必要か導き出し施設サービス以外も含めて対応の必要性を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から本人の出来ることや持っている力を発揮する機会を設けると共に、得意なことや職員の知らない事を教えて頂いたり、助けて頂ける関係性作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や地域交流イベントのご案内をし、参加を呼び掛けたり、日常でもいつでも面会して頂ける様呼びかけ、ご本人とご家族との絆が保たれるような関係づくりをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後、ご家族の他にも友人や知人が自由に来所して頂ける様ご家族に働きかけている。また、来所された方が家族ではなくても面会しやすい雰囲気作りを心掛けている。外出や外泊に対してもご家族や医療機関と連携を図りながら対応している。	友人との面会の意向を受け、家族へ相談・了承を得て、直接面談・説明し、事業所来訪に繋げるなど利用者の意向把握により、家族と相談し、馴染の関係の継続に繋げている。友人等へは年賀状と暑中見舞いを郵送し、馴染の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を見極めながら把握し、トラブル等予測される際には周囲への配慮をしながら、さりげなく回避できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葬儀へ参加させて頂いたり、サービス終了後もご家族からの相談に対応する等、少しでも本人やご家族のフォローを行い、関係性を断ち切らないよう取り組んでいる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とご家族への日々の聞き取りにて、アセスメントやモニタリングを行い、それぞれの希望や意向等の把握に努めている。	顔の動きや素振りから、元気な頃の状況を重ね合わせ、希望や意向の把握に努めている。把握した情報は、口頭での伝達や連絡ノートに記載して情報を共有し、利用者本位の介護支援に取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族への聞き取りの他、入居後のアセスメントとモニタリングにより把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメントやモニタリング、定期的に情報の整理を行い把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアプラン原案を基にケア会議を行い、ご本人の思いやご家族の意向に沿い、現状に沿ったケアプランを作成している。また、状態が変化した時は速やかに見直し、会議を行いケアプランの作り直しを行っている。	毎月の業務記録や生活記録から変化を汲取り、計画原案を作成している。スタッフミーティングやケア会議で班の意見と家族の意向も反映して、現状に即した計画づくりに取組んでいる。生活状態の変化には計画の見直しを行い、家族に説明して、最善の暮らしが出来る計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき実践し、気付き等があれば申送りの場や会議の場で公言したり、個別での記録や連絡ノートを使用し記載するなど情報共有し、見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向に沿い外出支援や、必要に応じた受診同行する等している。面会や看取りの際など食事の時間と被る際には、ご意向のもと食事の提供も行うなど支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の避難訓練で地区の消防署のご協力を頂き、グループホームの行事などに関しては、町内会や近隣保育園などからご協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に応じ、かかりつけ医療機関への受診支援をしている他、連携体制を取っている医療機関として、隣接する診療所や整形外科、歯科、眼科等の医療支援が受けられる体制を確保している。	入居時に協力医療機関の現状を説明し、かかりつけ医について利用者・家族の意向を聞き、利用者、家族の意向を尊重している。かかりつけ医の受診は家族が担い、協力医師の手紙を所持して受診し、家族からは、受診状況と投薬の報告を受け、双方で状況を共有し適切な医療受診に繋げている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として看護職員は配置されていないが、訪問看護ステーションと連携を図り、週1回の健康チェックによる体調管理の他、入居者の健康状態に関して、常時相談できる体制を確保し支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入居者の情報を提供することで普段の状態を把握しやすいよう努め、入院中の面会を通じ看護師などと情報交換を行うなどして、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針に基づき、入居時にご家族へ文書を手渡し口頭での説明を行っている。	契約時に重度化指針に基づき紙面説明を行い、同意の押印を得ている。利用者と家族は「最後まで暮らす」との意向を示しているが、事業所の職員間にバラつきがある。系列の医療機関や訪問看護師は協力的でチームへの受入れは了承しており、職員の看取りに向けた経験と資質の向上が期待される。	看取りについての経験者が、実体験の詳細を伝承するなど事業所内研修を実施して、利用者と家族の負託に応える体制づくりを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内において、AEDに関する研修会を実施しており、それに参加している。主たる職員は外部の研修へも参加する機会を設け、研修後そのほかの職員へ伝達している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施しており、町内会や近隣住民に対し災害時などの支援協力体制を築いている。また、地域の学校や町内会、関連施設と合同の避難訓練も実施しており、実際の避難場所を確認する等している。	町会の回覧板で地域に周知し、夏と秋の2回、町会・消防署等の協力を得て、消火や避難訓練を実施している。この中で毛布等を利用した、応急担架作りも経験した。近隣の高等学校との連携で防災訓練に参加し、避難経路と時間の確認も行っている。	介護用品や食料品、水、簡易炊事用器具等の備蓄がないので、必要な物品の備蓄とともに、期限を確認して入れ替えについても計画的に行うことを期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりと適切な距離感を保ちながら、親密感を大切にしている。ご本人の誇りやプライバシー、自尊心を損ねないような対応に努めている。	利用者の人権を尊重して否定的な言葉を使用せず、親近感と適度な距離感を持って自由な生活を見守り、言葉がけにも細心の注意を払っている。呼称は苗字に「さん付け」を基本とし、利用者と家族の了解により、馴染の呼称を使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望など表現しやすいよう話しやすい雰囲気作りに努め、日常生活から自己決定して頂ける様小さなことから自己決定できるよう言葉がけを意識しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の出来る可能性のある事から出来る事までやりたい、やってみたい事を見極めながら、ご本人のペースを保ち、希望を確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の天候や気温、季節、年齢、その人の好み等考慮しながら、身だしなみやお洒落にも配慮しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に調理したり、希望の品を聞き取ったり、職員が一緒に食事をし、雰囲気から味覚・嗅覚・視覚で楽しめるよう食事提供を努めている。片付けにも入居者に積極的に参加して頂ける様言葉がけや雰囲気作りに務めている。	メニューは系列の栄養士が作成するが、利用者の意向や食材により、臨機応変に変更している。味付けや色取の検証もその都度行い、見直しを行っている。利用者の嗜好に合わせ、ラーメン等の外食や蕎麦等の店屋物も取入れて変化を付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接している診療所の栄養士が立てた献立を基に、バランスのとれた食事の提供に努め、入居者の摂取量などは記録し、職員間で共有し一人一人がしっかりと水分や栄養が摂ることが出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人の能力・口腔内の状態に合わせ、回数やケア方法を個別で考慮し支援しながら口腔内の清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の時間帯による状態や身体状況、体調などに合わせ排泄用品を使い分けながらトイレ誘導・介助を行っている。日中はおむつ交換者はいない。	トイレ排泄を基本とし、個々の時間や素振り等を見ながら、周りの気付きに注意して、トイレ誘導を行い、自立に繋げる支援に努めている。このことで、おむつが取れパットに改善した。失禁には、さり気なく誘導、処理して尊厳の保持にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分量等把握しながらバランスの良い食事提供に努め、個々の状態に合わせた服薬や腹部マッサージなどの排便コントロールを実施しながら便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の状態や認知症の周辺症状等を考慮しながら個々のその日の状態に合わせて入浴時間を変更するなどし、ご本人の意思を尊重しながら気持ちよく入浴できるよう支援している。	利用者の意向に応えることを基本とし、体調を見ながら週2～3回を目標に入浴出来るよう支援している。職員とCDを聞きながら歌を歌って入浴したり、入浴剤を使用したり、楽しい入浴支援に取組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体力、その時の体調など状況に応じて休息する時間を確保したり、家事活動など適度な活動による適度な疲労を得て頂くよう支援することで安眠が保たれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	グループホームで管理し、服薬時には個々の能力に応じた服薬方法を支援している。誤薬予防の為、必ず間違いがないか、服薬前に2名以上のスタッフで確認を取りながら投薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下準備や後片付け、テーブル拭きや洗濯物たたみ、掃除等の家事への参加により能力を活かした役割の担い手として、喜びや達成感を味わって頂ける様支援している。行事や外出、地域行事への参加による楽しみも持てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿い、体調など考慮しながら外出できるよう支援している。その他季節に応じた外出行事を企画し、出来るだけ入居者全員が外出できるよう内容を考案して実行している。	季節企画は春の桜、夏のドライブ、秋の紅葉、冬のクリスマスファンタジーへ、天候と利用者の体調を見て行っている。スーパーへ買物、マラソンの応援、付近の散歩などのほか、突然の意向を受け個々のラーメン等で食事や全員食事にバス外出をして、季節の変化を肌で感じ、気分転換を図る支援に取組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人での管理が難しい為、ご家族より必要最小限の金額をお預かり管理し、ご本人やご家族と相談しながらいつでも使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の意向に添って電話の支援を行ったり、手紙などの書物については代読する等の工夫をし支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般的な家具を配置し、季節や行事に応じた飾りつけや模様替えを行ったり、入居者の状況や人間関係を把握した上で、共用部分の家具の配置などを変更するなどし、居心地の良い共用空間づくりに努めている。	照明・室温・湿度に気配りして加湿器を使用し、職員は話し声にも注意をして居心地よい空間である。ひな人形を飾るなど季節感を取入れ、利用者と一緒に季節を感じる工夫を企画している。利用者の状況と相性等を勘案して家具の配置を工夫したり、調理カウンターとの流れで、下処理や刻みの出来る場として活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の人間関係や認知症の度合や状態を考え、食卓の座席に配慮したり、リビングや和室にソファー、ベッドなどを配置する等し、自由に過ごして頂ける様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使い慣れた物を持参して頂き、なるべく本人の今までの暮らしをできるよう働きかけているが、消極的な状態が続いている。広報誌や日々の会話を通し居室の環境づくりの意味をご理解して頂ける様お声がけを続けている。	職員手作りの表札と担当する職員の写真と名前も掲示し、利用者との関係が理解できる配慮をしている。遺影や家族等の馴染みの写真も飾られ、利用者の寛ぎの場として、家族や友人等との語らいの場として、心地よく暮らせる空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りや椅子の設置、テーブルの高さ調整などにより転倒の原因となる環境的要因を作らないようにし、わかりにくい場所には目印などを取り付ける等し、場所の認識がしやすいよう工夫している。		